

医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	前置胎盤の出血に対する止血術「Mini Nausicaa Compression Suture」の有効性について
研究責任者	産婦人科 清水陽彦
研究実施体制	単施設での研究
研究期間	臨床研究審査委員会承認日 ～ 2025 年 9 月 30 日
対象者	2018 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日までの期間に当院で分娩した妊婦さんのうち、前置胎盤・低置胎盤の診断で帝王切開を受けた妊婦さん。
研究の意義・目的	当院は周産期センターであり、前置胎盤・低置胎盤に対して帝王切開を多く実施しています。前置胎盤は子宮下部～子宮口周囲に胎盤が付着する疾患で、胎盤娩出後に子宮収縮が起こりづらく、止血に難渋します。すでに子宮体部の出血に対する圧迫止血術は多数報告されていますが、前置胎盤の出血に対する止血術はあまり確立されていません。そこで今回、胎盤付着部の止血を限局的に行なう圧迫縫合止血術を Mini Nausicaa 法と命名し、報告します。これは 2018 年に Shih らによって報告された Nausicaa Compression Suture の簡易版であり、当科では主に前置胎盤・低置胎盤の帝王切開時、出血に対して実施しています。術式の有効性を評価するために上記期間に前置胎盤・低置胎盤の診断で帝王切開を実施した症例のうち、Mini Nausicaa 法により止血を得た症例を抽出し、その出血量や手技に要した時間などを評価します。
研究の方法	後方視的観察研究。上記対象者のうち、電子カルテより Mini Nausicaa 法による止血術を行なった群を抽出し、初産・経産、分娩時年齢、身長、体重、出血量、輸血の有無、などのデータ、分娩週数、手術時間、止血時間などを電子カルテから抽出します。
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 産科 (氏名)清水陽彦 TEL:053-474-2222(代表) 産科科外来 9:00~17:00 平日